

谷中圓朝まつり：三遊亭圓朝

全正庵で開かれる「谷中圓朝まつり」の名称は、伝説的な落語（伝統的な口承文学）家である三遊亭圓朝（1839年～1900年）に由来します。江戸（今日の東京）で芸能人の家庭に生まれた圓朝は、7歳で初公演を行い、17歳で真打ち（師匠）の位に達するという天才児でした。圓朝の時代には、江戸の至る場所に口承文学の劇場（寄席）がありましたが、新参者が下積みから這い上がれることは非常に珍しく、落語の職業は非常に競争の激しいものでした。

圓朝は、並ぶ者のない言語能力を駆使し、間もなく先輩の人気を追い越すことになりました。落語家の多くは既存の演目から物語を選びますが、圓朝は後に、独自の物語を書き始めました。圓朝はキャリアを通し、幽霊の話や長編の感情的な物語などを専門に、大量の作品を書き上げました。それらの多くは後に、歌舞伎の演劇や映画向けに劇化されています。圓朝の作品形式が与えた影響は大きく、今では新作落語の創立者の一人であるとみなされています。今日でも、落語家は全正庵に圓朝の墓参りに行きます。全正庵は、圓朝が寺の建立者である有名な侍の英雄、山岡鉄舟に坐禅の修練を受けた場所です。